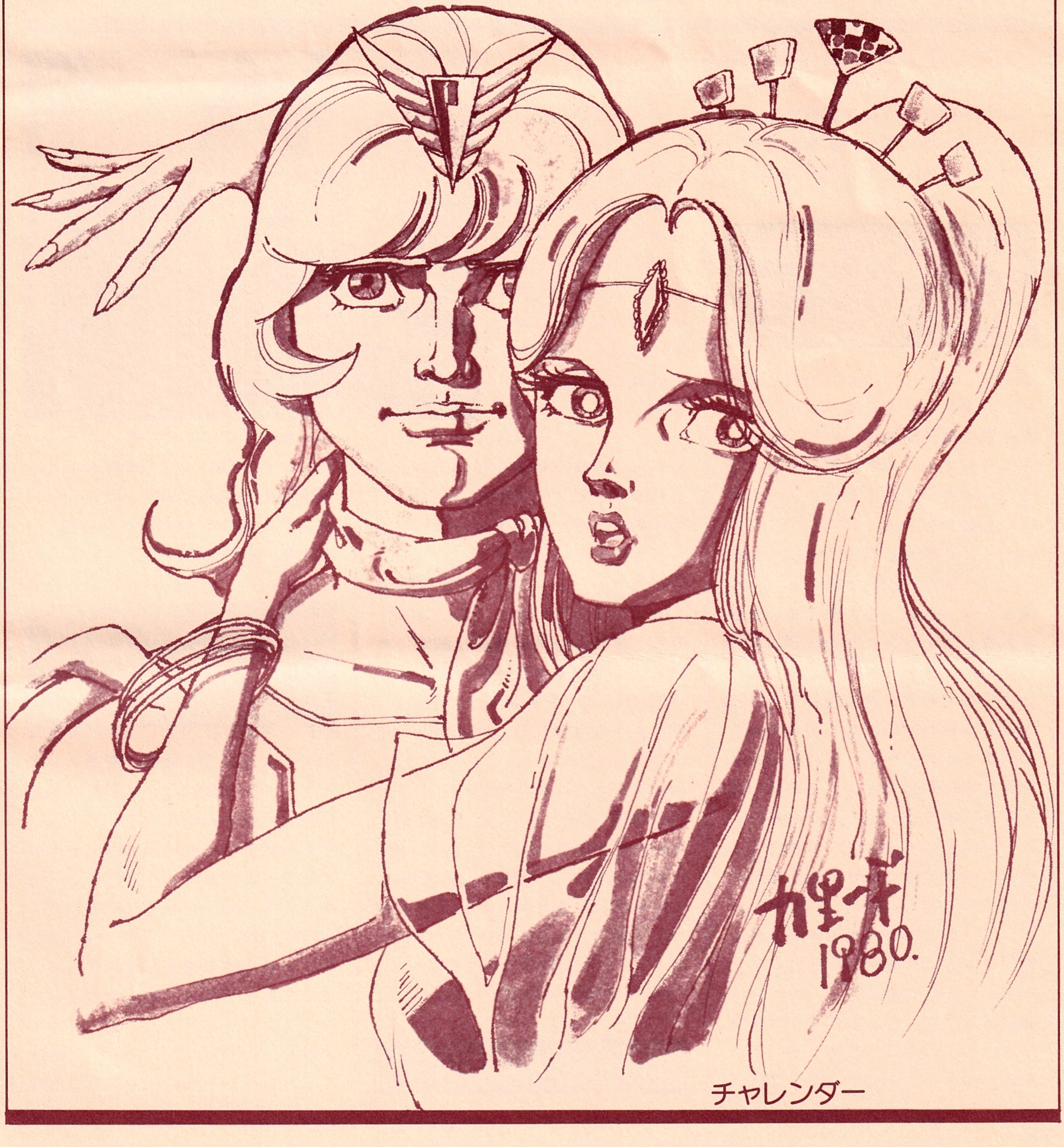
Tatsunoko
竜の子ファンクラブニュース NO.9 MAY 1980

FAN CLUB NEWS



チャレンダー

ⒻⒸⓃ 特集!!

竜の子プロ企画室

オリジナル作品を神髄としてきた竜の子。どこよりも新鮮で奇抜な企画設定。いったいどこからあの30作品ものオリジナルが生まれたのだろう。企画って何なのだろう？　あなたは『竜の子プロ企画室』って、どんなところだと思いますか……？

竜の子プロの第1作目、「宇宙エース」よりシナリオを手がけ、その後の竜の子作品の殆んどを企画した鳥海尽三氏を訪ねんと、編集部は東京中野にある〝鳥プロ〟へ参りました。

▶鳥海尽三
昭和40年から52年まで竜の子プロ企画文芸部長として、その殆んどの作品を手がける。退社後、酒井あきよし、陶山智らと共に、鳥プロを創設。

Qu. では最初に竜の子に入社した動機と時期につきまして。

Ans. 最初僕は実写をやっていてね、そのうちアニメのシナリオも書くようになって……。竜の子に入ったのは昭和40年ですよ。

Qu. もうその頃には〝文芸部〟はあったのですか？

Ans. なかったね。もちろん企画文芸部もなかったし。僕が竜の子に入ったきっかけというのは、亡くなった竜夫社長と現在の健二社長から、僕が虫プロにいた時に知り合いを通して、「来てくれないか」という話があって、それが最初なの。その前に竜夫社長に顔を合わせたことはないけれど、「あおげ太陽」という作品を当時講談社の〝ぼくら〟という雑誌で連載していたし、ほかに絵物語とか、アニメーションを始めるという話も聞いていて、興味がわいてね、この仕事に惹かれたの。

Qu. 入社当時には、既に宇宙エースは放映していたんでしょうか。

Ans. いや、していなかった。宇宙エースは5月から始まって、僕が入社したのは、その年の始めだったから。その頃宇宙エースは企画は既に決定していたけれど、文芸部というのはなかったし、シナリオについて誰も知っている人がいなくてね。ようするに〝宇宙エース〟という設定に生命をふき込むのが僕の第一の仕事だったから、やりがいはありましたよ。

Qu. そうなりますと、文芸部としての誕生は……？

Ans. 僕が入社して宇宙エースのシナリオを書き始めたのが、文芸部設立ということになるんだろうね。途中3年ばかり制作も兼任してやりました。制作部長を務めながら文芸も並行して続けて、そのあと制作がかたまってきたので制作のほうをおりて、〝企画文芸部〟に本腰をいれたのね。

吉田竜夫と竜の子アニメ

Qu. 竜の子の前半の作品、宇宙エース、マッハＧＯ、紅三四郎あたりは吉田竜夫の漫画を原作として企画化されてるようですが……。

Ans. 竜夫社長の原作というとパイロットエース、チャンピオン太、忍者部隊月光とかが後に竜の子アニメとしてはマッハＧＯ、紅三四郎、ガッチャマンとしてアニメとなったものがあるけれど、これはそっくり竜夫社長の漫画を原作としたわけではなくて、あくまでも発案、参考としてとどめて、企画は我々文芸部が独自に創り上げたものですよ。

竜夫社長の描いた漫画は、それはそれなりに魅力はあったけれど、漫画とアニメーションとは別物だから（誌面と映像と、そこからくる違い）マッハＧＯにしても、ガッチャマンにしても、アニメーションはアニメーションとして、オリジナリティのあるものを生み出したつもりですよ。

あれはエースが終わる頃で、２年

■竜の子放映リスト

昭和40年５月	宇宙エース（CX）
昭和42年４月	マッハGOGOGO（CX）
昭和42年10月	おらあグズラだど（CX）
昭和43年10月	ドカチン（CX）
昭和44年４月	紅三四郎（CX）
昭和44年10月	ハクション大魔王（CX）

目を継続するという話があって、スポンサーがカネボウだったからね、大阪まで竜夫社長と行ったの。ところが２年目はやらない、１年間で打ち切りだと聞いてね、がっかりして、失望して、どうしようかと思案にくれていた時、レース物が当時流行っていたから、ではスピードアクションものをやろう、スリルのあるものをやろうと、マッハGOを２作目に企画したんだよね。そこで竜夫社長の漫画、パイロットエースを土台に、アニメーションとして更につきつめ企画し、マッハＧＯはできたの。

Qu. ガッチャマン以前の作品は殆んど竜夫原作になっていますけれど、後半は竜の子プロ企画室原作になってますね。その点について……。

Ans. 最初の頃というのは、竜夫社長から案が出たり、あるいは演出家やアニメーターから企画が出て、どのような作品を創ろうか、何を描いていこうかと企画会議をして、それを文芸部でまとめたのね。企画文芸部ができてからは、とくにガッチャマン以後の作品、テッカマン、キャシャーン、ポリマー、ゴーダム、ボカンシリーズといったものは、原作から企画設定、文芸担当まで我々文芸部の中でやりました。

竜の子アニメの特色は、オリジナルということ。これが強味ですよ。

Qu. 企画文芸部はどういう人たちで構成されていたんですか？

Ans. そうだね、名前をあげれば、酒井あきよし、陶山智、小山高男、柳川茂、宮田知行、一時期多い時は７人くらいいたね。少い時は１人２人だったけれど、のべにすれば20人くらいいるんじゃないかな。独立してフリーになる人もいて出入りが激しくてね、うん、竜の子をやめてから皆それぞれシナリオライターとして活躍していますよ。

Qu. ここが一番お聞きしたいところなのですが、竜の子プロ企画室の他に類をみない特色というのは？

Ans. まず、オリジナルだということ。普通は名作物とか、史実とか、人気漫画を原作としてアニメ化するのだけれど、竜の子の場合、原作創り＝アニメーション、だね。宇宙エースからガッチャマンＦまで、約30作品あるけれど、ほとんど竜の子独自のオリジナル作品。なかには川崎のぼる原作の「いなかっぺ大将」、「てんとう虫の歌」という原作物も２、３あるけれど、竜の子という胃袋で完全消化吸収し、それなりのオリジナル作品に、竜の子流に再構成してますよ。

オリジナルができるっていうのが一番の強味だね。原作物だと一人の作家によって創られるから、とかくイメージや作風がかたよりがちで視野が狭くなる傾向があるけれど、竜の子は総合的に多数の企画者がいたから、色々なジャンルのものができたと思うね。ＳＦ物から、アクション物、短編のカバ・トットとか、ギャグ物、シリアス物、オカルトロマンや、ミュージカルアニメ、場合によっては大人も観られる戦記物、アニメンタリーとよばれた決断という作品もあったしね。

絵柄、キャラクターにしても幅広い。これは描ける人がたくさんいてそれぞれに強烈な個性をもってたからだけれど、竜夫社長一人にしても、ガッチャマンのような劇画タイプのものからハッチのような動物画、ハクション大魔王のようなギャグタッチも描けたでしょう。また九里一平、笹川ひろし、原征太郎、宮本貞雄、天野嘉孝、下元明子、高田明美とかね、さらに彼らを囲むアニメーターのアイディアも豊富だったね。竜の子アニメ、竜の子キャラという言葉がファンの間で言いつがれているのは、単にゴロがいいというだけではなくて、そう言わせる強烈なイメージ、惹きつける作風があるんだろうね。

企画する時に一番楽しみなのは、ネーミング設定だね。

Qu. 文芸、作画、演出と幅広い人材によってたくさんのジャンルの作品ができたんですね。ではその作品の発案、企画はどのようにして創られるのですか？

Ans. これは色々なシステムがあるのだけれども、ＳＦ物をやろうとか、メルヘン物をやろうとか、スポンサーや代理店、ＴＶ局のそれぞれからある程度の企画案が竜の子にまわってきて、それを企画会議にかけて文芸部でまとめるということもあれば、文芸部独自で企画原案を創り上げて、パイロットフィルム（試作品）にし、ＴＶ局やスポンサーにセールスすることもあります。竜の子内部で企画会議する時の面々というのは、社長、九里一平、企画文芸部と、制作側からは笹川ひろし、鳥海永行、原征太郎、宮本貞雄、天馬正人、ほか演出陣があつまってああでもない、こうでもないと討議するんですよ。

Qu. 企画会議で草案がまとまり、企画書を文芸部で作成する時には、旅館やホテルにこもると聞きましたが。

Ans. 創作活動に一番理想的な環境というのはね、俗世間から放れること。部外者を入れずに、文芸部５人なら５人だけで、相模湖や伊豆の旅館に３泊４日ぐらいこもってね、創作活動に専念する。皆気心の知れた連中ばかりだから、言いたいことも言えるし、色々な案も出てくる。やっぱり周りに雑音があると気がちるからね。自然の中で開放された気持ちでとりくむと、のってくるよ。

そうしてだいたい作品についての案が出揃うと企画書創りにかかるの。項目をあげると、企画意図・狙い、口上（セールス・ポイント）にはじまって、テーマ、キャラクター、メ

昭和45年４月	みなしごハッチ（CX）
昭和45年10月	いなかっぺ大将（CX）
昭和46年１月	カバトット（CX）
昭和46年４月	決断（NTV）
昭和47年１月	樫の木モック（CX）
昭和47年10月	科学忍者隊ガッチャマン（CX）

カニック、シリーズ構成に、エピソード、第1話から第3話ぐらいまで考えて、最終回への展望までまとめていく。原稿用紙にすると70〜80枚くらいかな。

企画設定するときに我々が一番楽しみなのは、ネーミング設定だね。例をあげれば、マッハGOを企画してた時に三船敏郎という俳優がいてね（今も彼は人気のある人だけれども）恰好いい、ハンサムなヒーローのイメージにぴったりだと、主人公の名前にもらったとか……。あと、グズラというのは、タイトルをいくら考えても出てこない。どういうタイトルと、名前をつけようかと迷ってね、それでめんどうくさいんでね、グズグズしている怪獣だからグズラとつけたらと笹川ひろしが言い出した。その後考えて、グズラ、グズラ、グズラ……なかなか面白いんじゃないのということになってね、かさねて〝オラァサンタ〟というのがあったから〝おらあグズラ〟になって、それに〝ど〟をつけたらどうかと、〝おらあグズラだど〟になったわけ。それがたまたまアフレコの時に大平透さんが「おらあグズラだどん」とんをつけちゃったんだね。これがまたいいんじゃないかということになって、セリフの語尾に「ん」をつけるようになったんだよ（笑）

ネームで面白いものといえば、ガッチャマン、テッカマン、キャシャーン路線。ガッチャマンはまるでギャグアニメみたいなタイトルだけれど、これは代理店から出されたものでね、方言にガッチャするという言葉があって、合体する、集合するという意味を含んでいるということと、加えて列車が連結する時に「ガッチャンコ」というでしょ、あれからきています。（笑）

キャシャーンはアンドロイドだから、金属っぽい表現を——ということでつけました。だけどこれだけでは説得力がない、どういう意味でつけたんだと必ず聞かれるから何か意味ありげなことを考えようと……。と、キャッシュという言葉があって、これは宝という意味、またパーンというのは方向という意味をもち、そこからヒントを得て考えた口上が、平和という宝のありかを探す少年、大切なものを求めて戦う正義の少年、キャシャーン——なんていうのは後からこじつけたことだけどね（笑）

アンドロー・梅田はアンドロメダ、ムータンはミュータント、ランボスは乱暴するからランボス、サグレーは情報を探れ！　でサグレー、バラシンは人を殺す、ベルク・カッツェは女性的、悪魔的にということで、山猫からきてるし、ハッチはハチであることももちろんそうだけれど、8chで放映するからハッチとか——、今思えば、よくあれだけ考えたね（笑）

Qu. 竜の子キャラはなかなか面白い名前がついてると思ったら、そういうところからきてるのですね、また、東とか南という人物が多いですが、これは？

Ans. うん、博士とか学者の場合、さも偉そうに見えるからね。一字だけつけておけば覚えやすいし、原稿用紙に書く時めんどうくさくないから。というのは冗談だけれども、でもまじに鉛筆がへらないから経済的でしょ（笑）

一番苦労するのは女の子の名前だね。女の子の場合は当時の人気のある可愛子ちゃんからもらうとか、映画や小説からみつけてくるとかね。ヒーローとなる男の子はカッコイイ、ニヒルとか印象がはっきりしているからつけやすいのだけれど、女の子の場合はイメージにあうような名前はなかなか浮ばないよ。

竜夫と企画部での十数年間は、僕のこれからの土台です。

Qu. もっとたくさん企画エピソードについてお聞きしたいのですが、お時間もありませんので——。それでは最後に、十数年間共に仕事をしてきた吉田竜夫についての印象を。

Ans. 竜夫社長は40才代前半で亡くなられてね。まだまだ20年でも30年でも竜の子アニメを日本だけでなく、世界に通じる作品にしようと、一線で活躍しましたよ。本当に残念だね。

人間的にはたいへん気さくな人だった。自らが現場に出むいて制作の辛苦をなめつくし、アニメーターを励ましていたね。社長然としているのではなく、何でも気軽に話すことができる、言いたい放題のことを言える庶民性をもっていたと思う。心がとっても広い人なんだね。それだから僕も思い思いの企画がたてられましたよ。この30作品においての竜夫社長との日々、共に培ってきたもの、それは今でも僕の中に息づいているし、これからもそれを土台にして、新しい企画、新作にとりくんでいきたいですね。

〆切り間際でお忙しいのに長い間編集部とおつきあいいただき、ありがとうございました。とくにネーム設定ではたくさんのエピソードがあり、載せきれないのがとても残念です。

竜の子プロを退社してから、鳥プロを設立し、ダイケンゴーなどの作品を創られた鳥海尽三氏。また現在鳥プロはファイターの文芸担当として執筆に励んでいます。鳥海尽三、陶山智両氏のファンレターの宛先は下記まで——。叱咤激励、大歓迎とのことでした。

165　中野区新井町2－10－9
窪寺工業ビル202　鳥プロ

昭和47年10月	かいけつタマゴン（CX）	昭和49年4月	新みなしごハッチ（NET）
昭和48年4月	けろっこデメタン（CX）	昭和49年10月	破裏拳ポリマー（NET）
昭和48年10月	新造人間キャシャーン（CX）	昭和49年10月	てんとう虫の歌（CX）

▲柳川　茂

ベルフィーとリルビット、ガッチャマンF、ボカンシリーズと幅広く企画を手がける。

㊎企画室対談

柳川茂 VS 宮田知行

今、竜の子に必要なのは熱い心の伝わるアニメーションだ。

▲宮田知行

企画、文芸担当はもちろんのこと、ゴーディアン、ファイターのプロデューサーとしても活躍中。

前ページで、竜の子プロ企画室の発端、そのエピソードを鳥海氏にお聞きしました。その後、鳥海氏の後を受け継ぎ、新竜の子プロ企画室を形成した柳川茂と、宮田知行。

僅かの間に、スペシャル3本、ガッチャマンF、ゴーディアン、リルビット、コラルの探検、オタスケマンと数々の作品を創り上げた熱意は、どこからうまれてくるのでしょう。

ライターが制作に苦しんでいる時というのは、異様な雰囲気ですよ。

――まず、アニメ界に入ったきっかけ、竜の子プロ企画室に入社した頃の様子を聞かせて下さい。

柳川：高校の頃から小説とか文筆活動の方に進みたくて、卒業するとシナリオ作家協会のシナリオ研究所へ行きました。その時研究所の講座にたまたま〝鳥海ゼミ〟というのがあって、アニメーションのシナリオを教えていたの。鳥海尽三さんのゼミというのは、基礎通りのシナリオの書き方を講議するのではなく、竜の子では今こういう作品をやっていますと紹介して、そのシナリオを書かせるという講座でした。この頃カバトットをやってましたよ。僕も何本かカバトットのシナリオが採用されたので、これはもう食えるものと思い込んで、物書きに足を踏み入れたのね。その後4、5年竜の子を中心にTVシリーズのシナリオを書いたりとか、漫画の原作、クイズ番組の構成をしていたのだけれど、放映が終わったりすると、とたんに仕事がなくなり、食えなくなってね。どうしようかっていう時に、竜の子から話がきたのね。企画文芸の人手が足らないから来てくれないかって。

――何年に入られたんですか？

柳川：えと、キャシャーンの頃だから昭和48年。もう7年になるね。当時の放映作品はデメタン、キャシャーン、ガッチャマンと3本あった。

――企画室ではどういう方がいたんですか？

柳川：鳥海さんをはじめ、落合、陶山、酒井、小山、山下諸氏。僕を含めて〝7人の侍〟だとか言って、騒いでいたよ（笑）

宮田：僕は高校を出てから、一応美大へ行ったのだけれど続かなくて、数年間フラフラしてました。25才になってから、映画が好きだったから、その方面をやりたくてやりたくて、決断を書いていた新井一さんのシナリオ研究所に入って、1、2年くらい勉強したんですよ。その時たまたまキャラデザの天野嘉孝氏とは竜の子に入る前から友達だったの。で、彼を通して柳ちゃんと国分寺界隈のキッサ店であったんだよね。それが二人の劇的な出逢い（笑）それまで漫画は（今のようにアニメとはいわなかった）あまり見たことがなかったんだけれど、タイムボカンで刺激されてね、これは面白い、やりたい！と思ったんですよ。

――その頃、今のように国分寺の本社内に企画室はあったんですか？

柳川：いや、その頃は国分寺から二駅先の鷹の台にあるスタジオ内に、企画室はありました。

――本社に移ったのはいつですか？

宮田：えと、あれは昭和52年。竜夫社長が亡くなる前ですよ。その時にはもう落合さん、小山さん、陶山さんはいなくて、4～5人企画室にいたね。

柳川：僕が入った頃は7人もいて中堅どころがずいぶんいたんだけれど。本社に企画室を移す時には、中堅どころが独立し出すようになって、ちょっと淋しい時期だったね。

――企画室にはすぐ馴染みましたか？

宮田：僕は最初企画文芸部の清く正しく貧しく（笑）という雰囲気に馴

昭和49年10月	ウリクペン救助隊（CX）
昭和50年7月	宇宙の騎士テッカマン（NET）
昭和50年10月	タイムボカン（CX）
昭和51年4月	ゴワッパー5ゴーダム（ABC）
昭和51年10月	ポールのミラクル大作戦（CX）
昭和52年1月	ヤッターマン（CX）

染まなかったのね。どちらかというと遊びもしたいし、人並みにオシャレもしたいし、酒も飲みたいというタイプだったから。

柳川：酒は鳥海さんともよく馴染んだでしょ（笑）

宮田：うん、うん、酒はよく馴染んだ（笑）ライターってね、こう四畳半の隅、平机でひっそりと書くというイメージがあるでしょ。でもそういうのって嫌なのね。企画室も皆しかめっ面をしててね。創作に悩んでいる図なんだけれど、もっと楽しくしてもいいんじゃないかと思ったわけ。僕が解放的過ぎるのかもしれないけれど。1年過ぎてからだね、親しめるようになったのは。

——企画室のイメージ、雰囲気とはどういう感じだったんですか、とくにスタジオにいた頃は。

柳川：企画室というのは他者に対して閉鎖的というか、小さくまとまる感じはあったね。それなりにチームワークもあったのだけれど。

宮田：企画というのは今みたいにオープンじゃなくて、秘密にしてたでしょ、ものすごく。社内でもね。だから、他の部署の人とはあまり接触をもたなかった。何より、立入禁止だったんですよ。他の社員が。

柳川：そう、入室禁止の紙をドアにはって、気楽に入れるようなムードじゃなかったんだよね。

宮田：入室できるのは社長、専務、キャラデザの人ぐらいだったね。スタジオにいても、殆んどスタジオの人は知らなかった。

柳川：本社に移ってからだいぶムードがかわったね。閉鎖的というほどじゃなくなって。でもね、皆書くことが仕事だから、周囲に気がちらないほうがいいの。だからスタジオの小さな部屋のほうが仕事はしやすかった。本社はだだっぴろくてね、気になる空間が多いの。それでどうしたかというと大きなついたてで窓際をくくって、おちつこうとしたの。でも別に窓際族じゃなかったよ（笑）

——企画室で皆さんがストーリィ創りに悩んでいる時、窮屈な感じはありませんでした？

宮田：窮屈だったね。部屋にいるのが。だからコピーを頼まれると喜んでとりにいってました。とにかく部屋を出られるならってね。息詰まる雰囲気はありましたよ。

とにかく書けなければ、竜の子プロ企画室で生きてゆけなかった。

——鳥海さんはシナリオについて、どのように教えられたんですか？

柳川：細かくは言わないの。こちらからできたものをみせてね、それに対して添削してくれる。

宮田：とても厳しかったよ。竜の子であんなに厳しい部長、企画室だけじゃないかと思うね。

柳川：物を書くのが仕事でしょ、書けないと無能者だからね、書けないとバカの烙印を押されるの。人間失格というか。

宮田：人間的にどんなによくできていても、そんなの一切関係ないね。物を書けなければ竜の子プロ企画室で生きてゆく資格がない。脱落者は死ね！ ほんと（笑）新作の話があがると、こもりにはいり企画書を作成するんだけれど、そこでキャラクター、メカ、ストーリィ展開とか一項目ずつ分担して書くんだけれど、企画書なんて書いたことないから、どういう文章で書いていいか全然わからない。そうするといつまでたってもできないわけ。みんな白い目で見てね、「本当にこいつはバカや」という感じで、途端に自己嫌悪に陥り、何度やめようと思ったかしれないよ。

柳川：意地なんだよね。途中でなげ出したら自分が負けたってことになるでしょ。負けるもんか、それだけでみんなへばりついてやっていたんじゃないかな。

それは、お茶汲みからはじまったのです。

——特に苦労したところありますか？

宮田：新人の頃、スタジオにいた時ね、先輩にお茶をいれなければならないから、お茶碗を洗いにいくの、お茶場に。そうすると、スタジオのお茶汲みというと皆18、19才の若い女の子ばかりだから、僕は当時20代後半のいわゆる大の男でしょ、恥しかったね、とても。それであわないようにしよう、あわないようにしようと、朝、昼、3時とか、かちあいそうな時間はさけてお茶場へ行きましたよ。

柳川：男ばっかりの部署だったからね。また部外者は入れなかったし、必ず一番新人がお茶をいれたり、掃除することになるわけ。

宮田：それも1回や2回じゃないんだよね。一日何回でもいれるの。

——「おい、お茶！」と言われるんですか？

宮田：もちろん言われる時もあるし言われないでも顔色を伺って飲みたそうだったら、アトランダムにもっていくわけ。このへんの飲みたそうな顔というのは、額のしわのより具合とか、鉛筆の走り具合とか、で見分けるの。洞察力がいるんだよ(笑)でも苦労してお茶をいれても、またこれがぬるいとか、まずいとか言われるの。

柳川：そうそう、茶碗が汚れているとか、茶渋がついているとか、もう一度いれ直してこいとかね。

宮田：そうするとブリーチを買ってきて、つけとくんだよ（笑）精神修業もあいまって、厳しかったね。これは芸術の類ではよくある話だけど。

——定時になったらサッと帰れるという雰囲気じゃなかったのではありませんか？

宮田：先輩が一人でもいれば、帰りづらいわけ。だから帰るまでこうし

昭和52年9月	一発貫太くん（CX）	昭和53年10月	科学忍者隊ガッチャマンII（CX）
昭和52年10月	風船少女テンプルちゃん（CX）	昭和54年2月	ゼンダマン（CX）
昭和52年10月	飛び出せマシーン飛竜（12ch）	昭和54年4月	コラルの探検（TBS）

て……（と机の上にワンちゃんのようにしがみつく宮田氏）でも、それも今思えばいい経験ですよ。今の世の中、忍耐とか、厳しさとか、教えてくれる人もいなければ触れる機会もないでしょう？　それを企画室は与えてくれたんだね。やっぱり、いい加減な気持ちで、ルーズにやっていたらいい作品というのはできなかったよ。何より企画室の風潮をつくっていた鳥海さんがすごい才能をもっていたからなんだけれど……。あの人は多様な言葉とアイディア、ペンにドラマをもっていて、頭が下がる思いがした。それだから厳しくてもついていけたし。また企画室の厳しさというのは、竜の子アニメ1本1本の作品の上でも作風としてでてるんじゃないかな。

テーマのしっかりしたものを書くこと。それがシナリオの鉄則だ。

――竜の子のシナリオというのは、一味も二味もあるようですが。

柳川：シナリオを書く時には必ずテーマをしっかりとふまえること。これは鉄則だね。設定を生かすも殺すも、その後のストーリィ展開にかかわってくるから。それもストーリィだけじゃだめ。よく事件があってそれで終わってしまうというのがあるけれど、それは竜の子ではぜったいに許されない。何を言いたいかはっきり出ていること。テーマがなければいけないね。ただムードだけで可愛いとか、激しさがあるとかだけではシナリオは成立しない。

宮田：ともすれば失敗する危険性も高い。へんに教育的になっちゃうからね。人はこうあらねばならないみたいになってしまう。ジーンとして、訴えてくるものが後で残る――というシナリオが理想的だね。

柳川：みなしごハッチはそれがいい面で出てたよね。

――企画書は何本くらいあるんですか？

柳川：正規の企画書だけで100本以上はあります。あと個人サイドでとどまったものや、未発表のものを含めればその2～3倍かな。僕たち新体制になってからも、2、3年の間に30本は創ってますよ。

――生みの苦しみというのをお聞きしたいですね。

宮田：何をやろうかと目処（めど）がある時には楽だけれど、その考えが浮ぶまでがたいへんなんですよ。友人と話すのも嫌になってね、シンドイネ、この時は。こもりに行く時も行くたびによせばよかったとか、どうしてこんな企画をたてちゃんだろうかと思うね。

柳川：こもりに行く時は環境もかわるし、周（まわ）りからも小旅行ができていいわねなんて言われると、わあ、こもりだ！　なんてはりきって行くんだけれどね。苦しみに行くようなものだよ。行くかぎりは白紙じゃすまされない、必ず仕上げてこなければいけないでしょ。

観る側の感覚、視聴者と同じ心を持ち続けたい。

――これからの竜の子プロ企画室としてはどういう作品、ジャンルをやりたいですか。

柳川：アニメーションでなければできないＳＦ、ファンタジーでもＳＦアクションでもいいんだけれど、いわゆるヒーロー物でない、ＳＦというのをやってみたいね。ＳＦ（科学的想像）といっても科学的要素ではなくて、フィクション性の濃いものね。例えば筒井康隆、かんべむさし、眉村卓（まゆむらたく）とか、あゝいうムードの一つのＳＦの世界を創ってみたい。そういう意味では九里一平の「チャレンダー」なんか面白いけれど。またファンタジー物ね。今はそういう時流じゃないし、むつかしいと思うけれど、いつかやってみたいですよ。

宮田：僕はファミリー感動路線が好きでね、野性のエルザのような動物と人間とのふれあいを描いたものとか、あるいは親父（おやじ）と息子の絆とかね。作品の意図としては熱い想いが伝わるようなもの。それはギャグでも、ロボット物でもいいんだけれども、心がはいってる作品を創りたいですよ。僕が真情としてるのは、視聴者と一緒の気持ちを持ち続けたいということ。観る側の感覚を持っていたいね。今生きている人たちのために創りたい。喜怒哀楽、物事を受けとめ、反応することを知ってる人たちのためにね。名作として残らなくていい。そういう意味ではオタスケマンは創っていて楽しいね。Ｐ○○からクレームがこようと何があろうと今みんながこの作品を求めているなら、創っていくべきじゃないかと思う。企画室としてはこれからスペシャルや、今年の秋、来年の春の新番組企画と、また悩める日々がくるかもしれないけれど（笑）ピッカピカの作品、生きてる作品を創っていきますよ。どうぞこれからも応援して下さい。

昭和54年5月	怪盗ルパン813の謎（CX）
昭和54年10月	足ながおじさん（CX）
昭和54年10月	闘士ゴーディアン（12ch）
昭和54年10月	科学忍者隊ガッチャマンＦ（CX）
昭和55年1月	ベルフィーとリルビット（12ch）
昭和55年2月	オタスケマン（CX）

日本TVスペシャル
制作快調!!

海底大戦争

愛の20000マイル

ジュール・ベルヌ原作、『海底二万マイル』、竜の子はこの物語にさらに新設定を施(はどこ)し、今、大海洋スペクタルロマンとして誕生させる。謎の大陸アトランティスを求めて、夢大陸(むたいりく)(リッキー)、ネモ船長はどのような生き様、男の人生を見せてくれるか、実に楽しみなところだ。

竜の子お得意の本格的SFアニメ。現在スタッフのやる気は満々、当作品はこの6月から7月に日本TV系にて放映予定、快調に制作中だ!

『海底大戦争』は35ミリフィルムで撮影し、約1200カット(1時半弱)で構成されている。さらに録音は多重録音。効果音は右へ左へ、画面は拡がり、壮大さがでてくることだろう。

君はこの作品に、何を感じてくれるだろうか——。

■メインテーマ 『アトランティス』

さあ　漕ぎ出そうぜ七つの海まで
愛しい人がまどろむ渚まで

海賊のように髪をなびかせて
南の風に船の帆を張れよ

あなたの胸に漂い着く
永遠(とわ)の旅路に

アトランティスMY LOVE そこに
眠るやさしい頬に触れるまでは
アトランティスMY LOVE そして
遠い神話の中へ

いくつもの嵐くぐり抜けて来た
荒くれだけに男を語れるさ

俺はこんなにもやせっぽちだけど
愛の強さは誰れにも負けない

二度とあなたを泣かせないと
今は誓える

アトランティスMY LOVE 人は
時を小舟で渡り夢を捜す
アトランティスMY LOVE そして
遠い神話の中へ

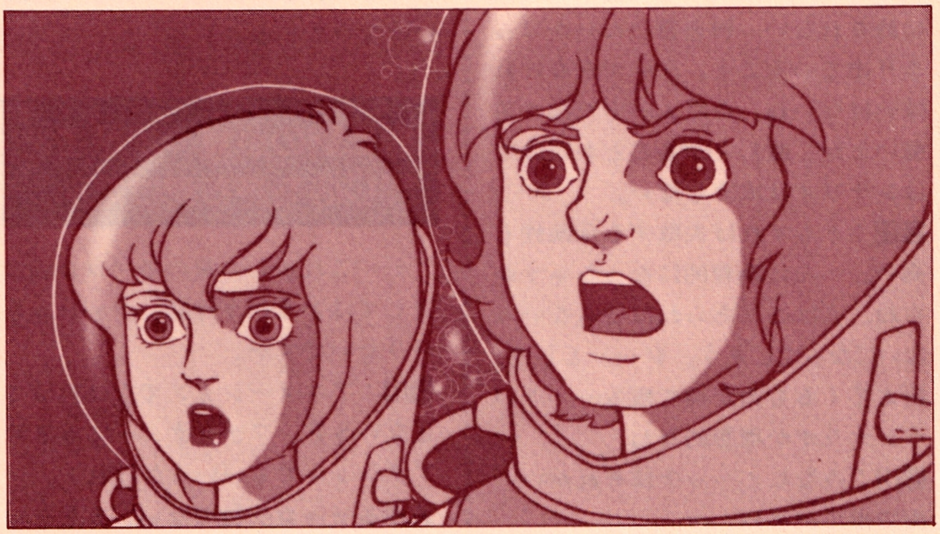
夜の星座があなたのいる
島を指さす

アトランティスMY LOVE そこに
眠るやさしい頬に触れるまでは
アトランティスMY LOVE そして
遠い神話の中へ

海底大戦争メインテーマ
『アトランティス』
作詩：松本隆
作曲：鈴木茂
コロムビアレコード

■制作スタッフ

制作：吉田健二(タツノコプロ)
日本TV
企画：吉川　斌(日本TV)
脚本：佐々木　守
総監督：九里一平
文芸：柳川　茂、宮田知行
音楽：鈴木宏昌
美術：明石貞一、多田喜久子
監修：宮本貞雄
プロデューサー：高橋靖二(日本TV)
井上　明



SHOP情報

健とジョーがステキな商品になりました

KEN & GEORGE シリーズ

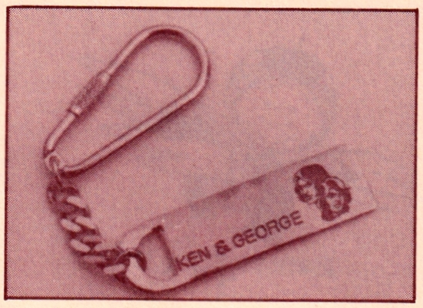
Ⓐブレスレット　大

㊎ ㊗ 700円

Ⓑブレスレット　小　㊎ ㊗　500円

Ⓒキーホルダー

㊎ ㊗ 500円



Ⓓペンダント　㊎ ㊗　500円

〈KEN & GEORGE シリーズ 郵送料〉

1～2ケ	50円
3～4ケ	60円
5～7ケ	140円
セット	送料はサービス致します。

尚、送料はキーホルダーの重さで見積りしておりますので、実際と異る場合もありますが、この点どうぞ御了承下さい。

THE HERO シリーズ

No.1　テッカマンポスター

B３　200円　〒 140円

天野嘉孝描きおろし

No.2　大鷲の健ポスター

B２　500円　〒 140円

河合静男（GM作画監督）
描きおろし

◎ポスターの場合、筒状にしますと送料が割高になりますので折り目をつけ、安価で郵送します。筒状を御希望の方は、その旨事務局まで御問い合せ下さい。

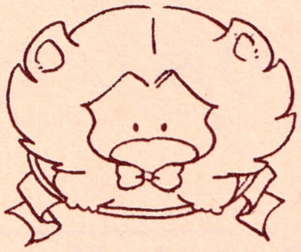
■御申込方法■

通販御希望の方は、品名（Ⓐ、Ⓑ、Ⓒ、No.１、No.２の別称も忘れずに）、色別を明記し、代金に送料の合計を添えて、郵便振込で御申込下さい。

口座　東京８－１５７９０８
加入者　株式会社　竜の子プロダクション

※振込用紙裏面の通信欄には、必ず御希望の商品名と会員No.、TELを忘れずに御記入下さい。また、商品がお手もとに着くまで、１ヶ月ほどかかる場合がありますが、事務処理の都合上、御了承下さいますよう、お願い致します。

※送料は10月より改定になります。



ふぁんふぁん

（やってはいけないと知りつつ、パロディ特集よ♥）

■会報８号で京都の砂山さんもおっしゃっていましたが、わが愛するエゴボスラー様に、はやく女の部下を出してあげて下さいな。それも、とびきりの美女を。ムフフ……。そうしないと、いつ欲求不満におちいり、ケンペラーやメカンドルに色目をつかわないともかぎりませんわよん！　こんどエゴボスラー様が占領記念パーティ開いたら、呼んでもらおっと！

PS. この間ベートーベンの「英雄」のレコードを買いました。こんどはエ.ゴボスラー様コート（彼がいつも着てるやつ）をつくろうと思ってます。　BY　H70022　さとこ

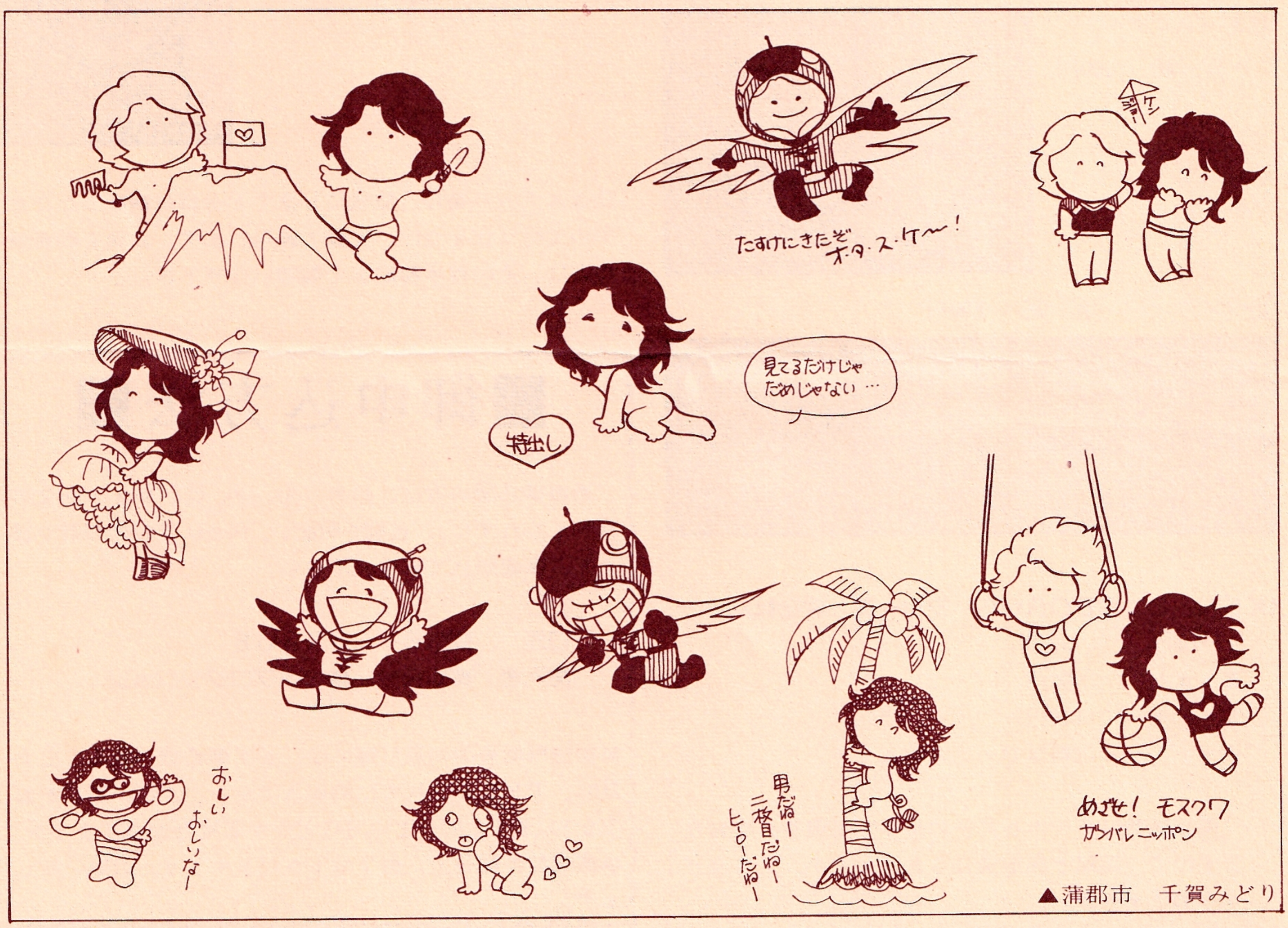
◎とうとうエゴボスラーの正体が明されたわけですが、いかがでしたか？　悲しい母の運命を背負った彼が、これからどういう行動に出て、総裁Ｚ、科学忍者隊と戦っていくのか、見処（みどころ）です。　㊢

■こんにちは……全国の竜の子ファン、そして、〝ベルフィーとリルビット〟ファンの皆様！！　恐怖の国家試験も終わり、おつむの中味ポッカリの小生ですが、まあそんな小生の話を聞いて下さいマセマセ〜〜〜。

先に書きました国家試験に備えこの小生、３月１日から16日まで俗に申します、カンヅメ、勉強机かぶりつき、完全密封、冷結乾燥でお勉強したんですの。

エッ？　そんな状態がよく２週間以上も続いたですって？　よくぞ、よくぞ聞いてくれました……あったのですよ、あったのですよ……ダイナモンドやドクロストーンはたまた命のもとに勝るとも劣らぬ、アルギンＺまっ青の思考力持続剤が……!?

何を隠そう下元明子さんの絵と文、朝日ソノラマ出版、定価350円で竜の



▲蒲郡市　千賀みどり

子特許シールもちゃんとついた（宣伝！　宣伝！）〝ベルフィーとリルビット〟の絵本なのじゃ〜〜！！

もう涙が出ましたネェー。なにせ下元さん独特のあの線は生きてるし、背景も夢があっていいし、そしてなんといっても、ＴＶのキャラに比べてリルビットがとってもやんちゃでベルフィーはすごく色っぽい所が気に入ってしまったのですよ。片肘（かたひじ）ついてフーとため息ついている所なんてたまりませんワァ。勉強にあきると、この絵本を見ては、オーバーヒート寸前の脳ミソをモミモミし、新たなる意欲をかきたてたのです。

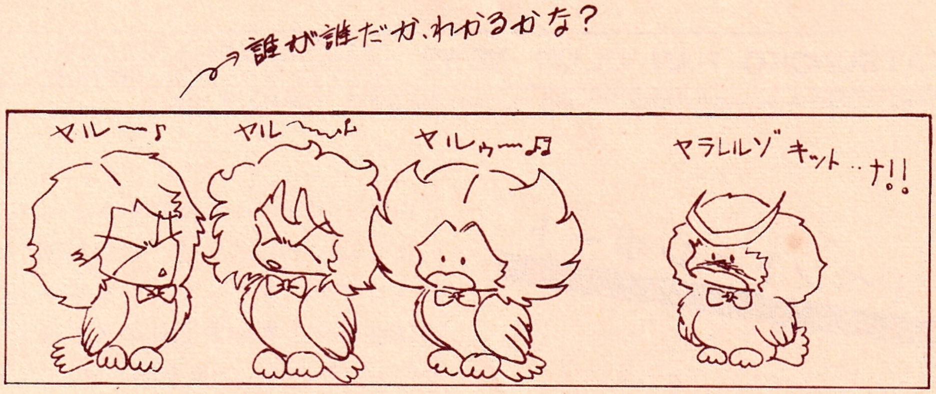
故に、試験日まで私の顔が……いや頭が狂わずにすんだのは、竜の子さんの、下元さんの、そして朝日ソノラマ出版のおかげなのじゃ。〝ベルフィーとリルビット〟これからも頑張って下さいネ。応援してますよ。

BY　C70014　ジュン子より

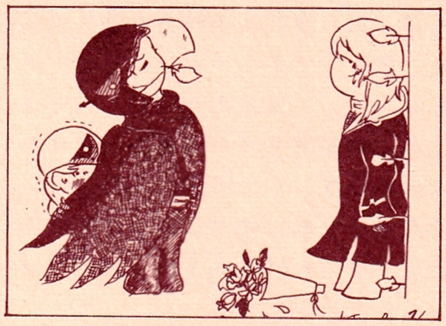
■ポリマーのレコードをゆずって下さい。廃盤になってしまって、どこにもないのです。お礼は相談の上。まずハガキで御連絡下さい。

それから、全国のポリマーファンによびかけたい。〝ポリマーファンよ！　眠っているひまはない。レコードが廃盤になったっていいじゃないか。もう１度みんなで働きかけてポリマーの新しいレコードを出させるのだ〟　くそ！！　コロムビアさんは何をしているんだ。ポリマーなしで〝レコード〟とよべるのか。あ

▲高槻市　玉井公子



▲東大阪市　松尾恭子


▲田無市　野口由美子

あポリマー〜〜レコード、出してとはいわないから、せめてもう１度、私の前にあらわれて、ほほえんではしい♥

510 三重県四日市市南浜田町８
8－47
田辺和代

◎はい！！　ポリマーは再びあなたの前に現れ、ほほえんでくれますよ。残念ながらシングル盤は発売にはなりませんが、徳間書店のロマンアルバムとして甦ります。発行は５月末予定。未公開のスチール写真、吉田竜夫画も盛り沢山掲載しますので、ぜひ書店でお求め下さい。また、再放送のフィルムセールスも行っておりますので、皆さんからも「ぜひ再放送を！」とＴＶ局におねだりしてはいかがでしょう。鎧武士の魅力をもう一度あなたに――。　㊞

■オタスケマン、毎週楽しく拝見しております。聞くところによりますと、このボカンシリーズ、平均25％の視聴率を獲得し、フジＴＶ高視聴率賞を受賞なさったとか――。ス、スゴイ！　さすが竜の子ギャグ。毎週毎週よくあれだけ色々なネタをかきあつめてくるものだと、感心してるんですよ（ワンパターンでもありますが、またそれがよいのです♥）

ところで、このオタスケマンは子供が見るものではないのでしょうか。何故って、この前竜の子ＦＣに遊びに行きましたら、５才くらいの可愛い男の子と、30才くらいのお母様がいまして、男の子がゼンダマンのセル画を欲しいとねだると、「駄目よ、これは子供が見る番組じゃなくて、お母さんたちぐらいの人が見るものなんだから！」と言うのですもの。

？？？　　BY　武蔵野のマコ

最近、力作がとても多くて、お便りを読むのが楽しみです。ＦＣＮではスペースが少くて全部載せられないのが残念でなりません。そこで、我が編集部ではＦＣＮ別冊『フリーフライト』を創ることにいたしました。〝FAN FAN コーナー〟ではなかなか掲載できないオリジナルストーリィ、アニメ論、イラスト等を盛り沢山に編集する予定です。Ｂ４版で30ページ以上、同人誌風に制作しますよ。不定期発行となりますので、発行日はまだ決定しておりませんが、でき次第お知らせします。

次号のＦＣＮでは、お待たせしました――「ＧＭ特集」です。原稿〆切りは５月末まで延期しますので、まだ寄稿なさってない方、今すぐ送って下さいね。

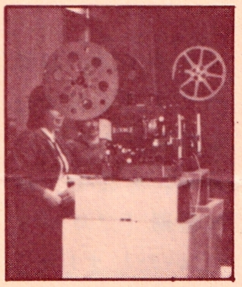
TATSUNOKO FAN CLUB NEWS MAY 20, 1980/VOL,1. NO.9 Published TATSUNOKO FAN CLUB.,
〒185 22-12 3-CHOME, MINAMI-CHO KOKUBUNJI-CITY TOKYO, JAPAN.
AYAKO YOSHIDA publisher/HIDEO TAKANO manager/MACHIKO YAMAMOTO editor/
©1980 TATSUNOKO

イベント・レポート

去る３月20日（春分の日）は大阪支部局で、３月21日（金）は、ＦＣ事務局でイベントを催しました。さて、この二大イベント、どんな様子だったのか、ちょっと振り返ってみましょう。

▶タツノコ・スクリーン・フェス　大阪支部局

去る３／20（春分の日）、大阪支部では、『タツノコ・スクリーン・フェスティバル』を催しました。上映は９：50から、迫力あるキャシャーンでオープニング。その後４本上映し昼休みとなりましたが、午前をしめくくったのはＧＭ「ギャラクター島の決斗」で、久し振りの旧ＧＭであったことや、画面の美しさと、素晴しいアクションに、会場からはタメ息が漏れることしきり。



無事に映せるかなァ？

▲すごい！　会場いっぱいの人

午後の部はオープニング集で幕を開けましたが、ここでは懐しいエースやグズラ、見事な動きをみせる紅三四郎、ポリマーに歓声があがっていました。そしてＧＭ「狙撃集団へビーコブラ」をもって、計９本の上映は終わり、参加者200余名を迎えたフェスティバルは幕を閉じました。参加者の皆様、有難うございました。

（大阪支部局長　中林千景）

▶テッカマン　ＶＳ　キャシャーン　世紀の対決　ＦＣ事務局

大阪支部に続いて、ＦＣ事務局でも３／21（金）に上映会を催しました。題して『テッカマン　ＶＳ　キャシャーン　世紀の対決』　当日は平日と終業式とストが重なったにもかかわらず、沢山の方に来場していただきました。中には前日の大阪支部局上映とかけもちという熱烈ファンもいたほど。↗

↘上映作品はテッカマンとキャーシャーン各ベスト話数を３本ずつ、そして両作品の生みの親、旧作ＧＭと、孫（？）のポリマー。見逃せないシーンの連続、ボディアクション、はたまたギャグギャグの連続で、とても短い一日でした。

そしてすでにおなじみになりましたコスチュームショー。テッカマンとキャシャーン両者の対決にポリマーが迷い込み、色気のお姉様、ムージョと南波テルがいちゃもんをつけ、最後はエゴボスラーが制するという、一夜づけのメチャクチャなストーリィ。ともすればピ○○サロンになりそうな雰囲気でした。一等驚いていたのは中野文化センターの方。一言、「これ、子供向けの上映会じゃないの？」　ハハハ……（司会者苦笑）気にしないで下さいませ。

世紀の対決

バチッ！　バチッ！

キャシャーンこそ鉄を叩いたらいたいやい！

なによ！単細胞のジョージ！

ガッチャマンフェスNo.2

１月に催しましたガッチャマンフェスNo.１に続き、第２弾が決定しました。前回より更に内容の濃いものを――と、企画しておりますので、ぜひ皆さんの夏休みのスケジュールに入れて下さいね。

日時：昭和55年８月２日（土）
　AM10：00～PM８：00
会場：千代田区公会堂
内容：旧作ＧＭ全13～15本上映
チケット：前売　1,000円
　当日　1,200円

オタスケマンLP、発売!!

オタスケマンの主題歌、ほか挿入歌を収録したＬＰが、６／20、ビクターより発売になります。

なんと、このレコードのＢ面がオタスケマン新作オリジナルストーリィ『アターシャの結婚披露宴！？』というから驚き。タイムボカンからオタスケマンまでのメンバーが総出演、媒酌人に笹川ひろし監督を迎え、アターシャの結婚式が開かれるのです！　果して、アターシャは心の人を明かし、妻となるのでしょうか？